

ウルトラの戦士、始め  
ました。

気まぐれな富士山

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ウルトラマンオタクのアラサー独身男、榎 仁也は突如現れたウルトラマンに自分の使命を伝えられ、宇宙を救う決心をする！

時に笑い、時に涙し、時に怒る。彼の冒険が今、始まる！

# 目次

プログラグ

---

1



# プロローグ

俺はウルトラマンが大好きだ。初代から最新まで大好きだ。どちらかというところと昔の方が好きだけど。

そんな俺は、ある日ウルトラマンに会った。

トラックに轢かれかけた子供を助けたときだ。

初代ウルトラマン、ウルトラの星M78星雲光の国の英雄だ。

出会った時はそりゃあ興奮した。なんせ憧れのウルトラマンだからな。

そして、彼(?)は言った。

「地球を、宇宙を救って欲しい！」

その時は少し悩んだよ。

だって、俺は自分の命がかかったことなんてしたことがない。ましてや地球の、宇宙の命運をこの30後半のオッサンに頼むなんて、馬鹿げていると思った。

しかし、彼はそれを百も承知で頼んできたんだ。遠い星から、この俺に。

なんでも、俺は遺伝子的にウルトラマンの力を100%使いこなせるらしい。それは、宇宙レベルで見ても稀、希少ななんだと。

確かに俺は幼い頃に両親を亡くし、今でも恋人どころか気になる人もいない。天涯孤独の身だ。

そんな男に頼むだなんて、夢にしては出来すぎだ。

俺は了承した。こんな男で役に立つならと。

そしたらウルトラマンは、

「引き受けてくれたところ悪いが、今は時間が無い。すぐにでも我々の力を受け取って欲しい。なあに、心配はいらない。君なら確実に適応できる。この力にはキングの力も入っているんだ。君は、いつでもどこでもこの力を使える。だが忘れるな！その力は、悪事に使うと爆発する！」

随分と物理的な脅しだが、今の俺にそんなことをするつもりは更々ない。

「君の任務はこの宇宙の外側、我々の力の届かない、別の宇宙での異変解決だ。何かよからぬ事が起。そのものの元凶を突き止めるのが君の任務だ！」

さあ、行こうぜ！その宇宙とやらによう！

「あ、力の説明をするからちよつと来てもらおうぞ。」

あ、はい・・・

こうして俺はウルトラの戦士になった。呆気なかったがここから始まったんだ。俺の宇宙警備隊ライフが！

そして俺は、数々の宇宙で様々なヤツらと出会い、別れ、そして対峙する。

まあ、それはまた先の話・・・

主人公  
榊 仁也  
さかきじんや

能力

ウルトラマンシリーズ全てのウルトラマンの力を使える。しかし、最終フォームや絆の力が必要な姿には条件がかかる。ウルトラマンキングやウルトラマンノアの力も使えるが、負担が大きい。人サイズのウルトラマンにもなれる。変身無しの素手でもかなり強くすることが出来る。(コンクリをかち割るくらいには。)

性格

ウルトラマンに憧れ、ウルトラマンを志す戦士。正義感と使命感を背負い、一人前のウルトラ戦士を目指す。私生活では、ブラック企業勤めにより鍛えられた精神で、最大8徹が可能。一人で会社の経理を担当しており、その勘定術には神が宿るといふ。異性と最後に会話したのは高校2年の春のため、異性の感情に疎い。それなりにイケメン。

座右の銘

「明日に向かって叫ベシユワッチ。」